

ピンク色の赤ちゃんを…

連日テレビなどで、信じられないような子供に対する虐待報道を目の当たりにしています。それも生死にかかわる悲惨なことが実の親などの近親者によって行われています。

「何てことだろう」とやり場のない気持ちにとらわれます。どんな動物でも親は我が子を守り育て、場合によっては自らの命までも懸けて守ろうとします。ふつうの親は、子供を可愛がり大切に育ててゆくはずなのに、自分をコントロール出来なくなっている様子は、分身を傷つける自殺行為だと思います。

昔から「自分のおなかを痛めた我が子だから」と言いますが、お産がその後の子育てに及ぼす影響はどんなだろうかと時々考えます。

私は、全くの自然なお産のみをあつかっていますが、取り上げた子供たちに虐待がおきることはないだろうと思っています。何故なら、人為的操作や薬物を一切使用せず自然な形で生まれた赤ちゃんは、不思議とお腹がすいたり、オムツがぬれたりする以外に泣かず、親に余分なストレスを与えないからです。

スムーズな安産ではなく苦勞して出産される方も時折ありますが、「自分の力で自然に産めた」という自負は、その後の育児を乗り切る上で大きな力になっています。胎児や母体自体に異常が起きて、やむを得ず医学的な処置がなされる事は仕方のないことです。しかし、親や医療機関の都合で出産させられたり、安産を求めて薬物を用いていたとしたら、きっとお腹の中の赤ちゃんは苦しんでいるはずで、「それがトラウマになり、成長していく中で心の傷になる」と言い切っている学者もいます。

自然の力でピンク色の赤ちゃんが産めたら本当にいいですね。そんな親子には「虐待」という文字は絶対にありえないと思っています。